

2010年 20兆—26兆円市場へ

ナノテク・材料 **豆事典**

ナノテクノロジー関連産業の国内市場規模は、2010年（平成22年）時点で20兆—26兆円。昨年12月に政府が策定した「産業発掘戦略」で示された予測だ。

それによると、ナノテクノロジーが創出する産業を5つに分類。そのうち次世代半導体、光ネットワーク、次世代ディスプレイなどの関連産業で構成する「ネットワーク・ナノデバイス産業」の規模が最も大きく、17兆—20兆円を占める。

あとは、バイオチップ、DDS（薬物送達システム）、生体適合材料などの関連産業でつくる「ナノバイオニック産業」が0.6兆—0.8兆円、燃

料電池、輸送機器、発電関連などの「ナノ環境エネルギー産業」が0.9兆—1.7兆円、高信頼性構造材料、維持・補修・メンテナンス関連の「革新的材料産業」が0.6兆—1.4兆円、MEMS（微小電気機械システム）、マイクロリアクター、ナノ計測関連などの「ナノ計測・加工産業」が0.8兆—2.2兆円という見通しだ。

同戦略では、これら5つの産業を創出するための行動計画として、①融合を加速する戦略的プロジェクトの推進②即戦力となる幅広い視野を持つ人材の育成③市場化を推進する環境整備—の3つを掲げている。

あすは「ナノ計測基盤⑤」です